



# ほけんだより

平成25年6月号  
明照保育園



## 【子どもの健康状態】

気温の変化が大きかった5月、蒸し暑さの続いている6月。季節が移り変わるこの時期は、乳児クラスで下痢や発熱などの理由で欠席している子がみられます。市内でも胃腸風邪が流行しているとのことですので、体調の変化を見逃さないようにし、早期治療に努めましょう。

## 【内科健診がありました】

囑託医の市川先生により、5/15（水）に月組・星組、5/22（水）に花組・雲組・赤組の内科健診がありました。一部の園児にぜんそく気味の子や、水いぼ、乾燥による湿疹などの所見がありましたが、園児全体としては、おおむね良好で問題ありませんでした。

## 【寄生虫卵（検便）2次検査があります】

5/22の前検査では、検体の提出へのご協力ありがとうございました。前検査の結果は別紙にてお知らせしますのでご確認ください。今回の検査でぎょう虫卵が検出された子はいませんでした。前検査が未提出だった子は、この機会に必ず提出してください。

### 後検査日程

7/1（月）	回収開始
2（火）	↓
3（水）	回収最終日

3日間のうちに必ず提出してください。

※ 前検で配布した採便容器のない方は再度お渡ししますので早めにお知らせください。

## 【虫歯予防のために 大人が気をつけるべきこととは？】

先月号でもお知らせしたように、今年度の歯科健診は9月の予定ですが、それまでに1本でも虫歯を増やさないよう、今からでも気をつけましょう。

★ 年長児になっても、毎日の仕上げみがきは大人がしっかりと！

毎年の歯科健診では、年中児頃から急に虫歯の数が増える傾向にあります。

“子どもが自主的に”という年齢でもありますが、歯磨きについては大人による

“仕上げ磨き”が重要です。幼児期の虫歯は大人の責任だそうですよ。

★ 2才までは極力甘い物を与えない。（おやつを選びましょう）

長い時間口の中に残るチョコや飴などは、歯のためには良くありません。

★ フッ素塗布の効果は4～5ヶ月です。年長児のフッ素洗口が始まるまでは、市の健診や歯の健康フェスティバル等をうまく利用しましょう。遅くとも半年に一度フッ素塗布をすることで虫歯予防効果が持続できます。



## 【プールあそびの注意点】

蒸し暑い日が続き、プール開きが待ち遠しいですね。今年度は6月27日（木）を予定しています。子ども達が楽しく安全に水あそびをするために、次のことをお願いします。



### 水あそびの前には

- 手足の爪を短く切る
- 十分な睡眠をとる
- （耳鼻科などで）耳垢を掃除する
- 朝ごはんをしっかり食べてくる
- その日の朝に体温を測る

次のような症状が見られる時は、水あそびを見合わせた方がよい場合もありますので、プールに入ってもよいかを かかりつけ医に相談し、かならず担任にお知らせください

- とびひ
- 目の充血
- おなかをこわしている
- 鼻水がでる
- 顔色が悪い、または、だるそうにしている
- 感染症にかかっている
- 病気や大きなケガがある（発熱、目・耳・鼻の病気、伝染病、心臓が弱い、など）

## 水いぼ



## Q & A

### 水いぼって何？

A. 伝染性軟属腫ウイルスが原因でできる粟粒大のいぼで、おなかやひじ、わきの下などにできて広がります。

### うつるの？

A. いぼがつぶれて中の液が付くとうつります。体の接触、タオルなどの共有でうつりやすいので注意が必要です。

### 登園やプールは？

A. 登園の制限はありません。プールもOKですが、傷がじゅくじゅくしているときはガーゼで覆い、プールも控えたほうがよいでしょう。

### どうやって治すの？

A. そのままでも半年から1年半ほどで治ります。アトピー性皮膚炎の子や、かゆくてかきこわしてしまような場合は医師に相談のうえ、治療を。

高熱に注意！

## 夏かせ

夏かせを起こすウイルスは、冬のものとは異なり、高温多湿を好むタイプです。せきや鼻水は少なく、肺炎などに進行することはまれです。夏に流行する主な病気に、プール熱、ヘルパンギーナ、手足口病などがあります。

- 高熱が出る
- 目の充血、痛みがある
- のどが赤くはれ、痛みがある
- 体に発しんが出ると

これらの特徴があったり、いつもと様子が違うときは、必ず受診し、医師の診断を仰ぎましょう。

## 【おわりに】

暑さで体力を消耗した体は、しっかり休めないと体調を崩しがちです。免疫力が低下している時には、（夏かせの記事ところにもあるような）夏にかかりやすい病気にもなりやすくなります。夏は楽しいイベントも多いので、たっぷり睡眠をとって元気に過ごしましょう。